

			令和3年度 自己評価表		鳥取県立鳥取商業高等学校		
中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける			
		年 度 当 初		評 価 結 果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	現状(令和2年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・90%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、相手を見てしっかりと声が出て挨拶をしている生徒は減ってきてつづいてある。また、登下校時の服装の乱れも見受けられるようになってきた。 ・86%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・88%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意欲や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・93%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・90%の生徒が安心して安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・70.1%(74.9%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.75件(2.02件)、一人あたり1.17回(0.68回)(通院等による遅刻も含む)。※()内は昨年度。 ・QUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、外部機関、学年団と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ450件(昨年度180件)であった。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上。 ・安心して安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上。	・将来の職場での仕事や上級学校での学びにつながる鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・社会生活を送る上で必要な日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続して行い、自分の姿を客観的に見る力を養う。 ・学校内外での行動や態度により自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもたらし、地域社会からの学校への信頼にもつながることを意識させる。			
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や中止を余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対して全職員で小論文指導、面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設計計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が97名(58名)であり取得率は51.1%(33.5%)、1級未取得者は5名(11名)、1級7種目取得者1名(2名)。商業経済検定全科目合格5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)。 ※()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	・各学年において、ふるさとキャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・令和3年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施するとともに、表現力を豊かにする一助として必要な知識量(語学力、社会事象についての知識など)を増やす取組を進める。 ・3年生への小論文指導、面接指導や就職希望者への社会人による面接指導を継続して実施する。			
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・毎朝食摂取92%、日ごろから運動を心掛けている生徒79%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い一方、46%の生徒が就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えており、生活のリズムが取れていない生徒も多い。92%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が遅いことが当たり前にできていることが危惧される。(学校生活アンケート) ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている生徒、スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない生徒がいる。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要である。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施した。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施した。 ・体育祭(9月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施した。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀賞(日本学校保健会主催)を受賞した。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めるとともに、健康課題を生徒全体で解決しようとする姿が見られる。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・全国健康づくり推進の取り組みを発展させて、心身の健康作りさらに取り組む。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休めてリセットする方法を体感・会得させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのための健康教育LHRを継続して実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。 ・実践を全国学校保健学校安全研究会で発表する。			
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年146分(139分)、2年180分(143分)、3年205分(126分)と各学年とも昨年同時期よりは増加。10月平常時の自宅学習時間は1年44.9分(34.5分)、2年32.6分(40.6分)、3年44.9分(24.6分)であった。2学期の差が大きい。 ※()は昨年度同期。 ・11月に中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業(商業)と研究協議を実施。 ・12月にエキスポパート教員公開授業(国語)を実施。	・全生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の一部活動が10以上となっている。	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との運動をはかり、期間を限定しながら日々の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・1年生への一人一台端末の導入を契機として、オンラインツールを活用した学習習慣の定着をはかる。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。			
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【心身の健康作りを実践する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送る。 ・健康課題を生徒主体で解決しようと努める。	・毎朝食摂取92%、日ごろから運動を心掛けている生徒79%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い一方、46%の生徒が就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えており、生活のリズムが取れていない生徒も多い。92%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が遅いことが当たり前にできていることが危惧される。(学校生活アンケート) ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている生徒、スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない生徒がいる。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要である。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施した。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施した。 ・体育祭(9月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施した。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀賞(日本学校保健会主催)を受賞した。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めるとともに、健康課題を生徒全体で解決しようとする姿が見られる。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・全国健康づくり推進の取り組みを発展させて、心身の健康作りさらに取り組む。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休めてリセットする方法を体感・会得させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのための健康教育LHRを継続して実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。 ・実践を全国学校保健学校安全研究会で発表する。			
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年146分(139分)、2年180分(143分)、3年205分(126分)と各学年とも昨年同時期よりは増加。10月平常時の自宅学習時間は1年44.9分(34.5分)、2年32.6分(40.6分)、3年44.9分(24.6分)であった。2学期の差が大きい。 ※()は昨年度同期。 ・11月に中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業(商業)と研究協議を実施。 ・12月にエキスポパート教員公開授業(国語)を実施。	・全生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の一部活動が10以上となっている。	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との運動をはかり、期間を限定しながら日々の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・1年生への一人一台端末の導入を契機として、オンラインツールを活用した学習習慣の定着をはかる。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。			
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねることで、人間的に成長している。	・部活動の加入率は99%と高いが、あまり活動できていない生徒がいることも事実であるため、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による全国大会の中止、中国大会の棄権もある中でも好成績を取った部もある。 ・部活動終了時刻の周知を図ったが、一部の生徒は帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できていない。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第28回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸し出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髮、挨拶などのマナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乗らない生徒には丁寧に説明して見通しを持たせ、端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・学校運営協議会を活用し、多様な立場の意見や提言を聴取する。 ・年度初めに全校集会オリエンテーションを行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・1年生にはビジネス体験実習に代わってLOCUSを導入する。 ・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、また学びの実践の場としての諸行事のあり方について、学級減の状況を考慮しつつ検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理等)を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事問題への関心を高める。 ・国際交流のようすを授業や部活動を通して発信し生徒の関心を喚起することで、交流を牽引する次期リーダーを育成する。 ・オンラインで参加可能な海外交流事業への積極的な参加を勧める。 ・全商英検1級受験、実用英語検定準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生入学後の英語初期指導を充実させるため1年生コミュニケーション英語Ⅰでの習熟度別授業を継続する。			
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・第27回鳥商デパートを生徒の保護者・家族限定で開催。全学年生徒が参加した。売上3,736,475円、来場者数962人であったが、客単価が昨年の2.7倍となり保護者・家族の関心の高さがうかがえた。2月19日に成果発表会を開き協力企業、学校運営協議会委員に講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸し出し冊数は延べ3,520冊(3,690冊)。一人あたりにすると6.5冊(6.9冊)と昨年度よりやや減少した。授業での利用時間数は444時間(345時間)と増加した。教科、分掌と連携した読書指導を実施したが、時事問題や社会問題への興味・関心の喚起は十分とは言えない。 ※()は昨年度同期。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を実施。	・月当たりの時間外業務についてはさらなる縮減を目指す。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髮、挨拶などのマナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乗らない生徒には丁寧に説明して見通しを持たせ、端正な姿が生徒自身の評価につながることを意識させる。 ・学校運営協議会を活用し、多様な立場の意見や提言を聴取する。 ・年度初めに全校集会オリエンテーションを行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・1年生にはビジネス体験実習に代わってLOCUSを導入する。 ・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、また学びの実践の場としての諸行事のあり方について、学級減の状況を考慮しつつ検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理等)を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事問題への関心を高める。 ・国際交流のようすを授業や部活動を通して発信し生徒の関心を喚起することで、交流を牽引する次期リーダーを育成する。 ・オンラインで参加可能な海外交流事業への積極的な参加を勧める。 ・全商英検1級受験、実用英語検定準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生入学後の英語初期指導を充実させるため1年生コミュニケーション英語Ⅰでの習熟度別授業を継続する。			
5. 業務改善の取組	校務分掌・任務分担の見直しを実施する。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得を促進した。 ・教員業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間が増えた。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用により、多様な勤務形態の職員も含めた効率的な情報共有ができた。	・月当たりの時間外業務についてはさらなる縮減を目指す。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板、GoogleClassroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心技体一体となった発達のあり方の検討を進める。			
	長時間勤務者を解消する。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・月当たりの時間外業務についてはさらなる縮減を目指す。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板、GoogleClassroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心技体一体となった発達のあり方の検討を進める。			
			評価基準 A 十分達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D まだ不十分 E 目標・方策の見直し [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]				